The background features a light blue, textured illustration of a school building with a fence in the foreground. The building has several windows and a central entrance. The fence is on the left side, and the sky is light blue with some white clouds.

学校評価の4点セットと
学力向上プランの
連動及び
精度の向上等について

【本日の流れ】

- ① 育成を目指す学習の基盤となる資質・能力について
- ② 4点セットでの具現化について
- ③ 学力向上プランとの連動について
- ④ 管内の好事例について
- ⑤ まとめ

① 育成を目指す学習の基盤となる資質・能力について

そもそも
「育成を目指す資質・能力」を
どのようにして
設定していけばよいのだろうか？



① 育成を目指す学習の基盤となる資質・能力について



実態把握

自分の言葉で説明するのがって難しいなあ。
伝えたいことはあるんだけど、みんなになかなか伝わらなくて面白くないなあ。

要因分析

まずは、説明することが難しいと感じている原因から考えていく必要がありますね。
考えられることは…

・説明するための話型やパターンを知らない。 ・語彙が少ない。といった知識・技能の習得以外に「筋道を立てて自分の思いや考えを伝えることができる力の育成」や目的意識や相手意識を持たせ、何のために説明するのかをはっきりとして「自分の思いや考えを進んで伝えようとする意欲や態度の涵養」も必要ですね。



学習の基盤となる「育成を目指す資質・能力」を
「筋道立てて考え表現する力」に設定

① 育成を目指す学習の基盤となる資質・能力について



学校の教育目標

目指す子ども像

育成を目指す
資質・能力

資質・能力の3つの柱で
整理

4点セット

児童生徒の実態
※学校・家庭・地域の実態

➡どのような力が必要か

要因分析



小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

総則編

平成29年7月

文部科学省

② 4点セットでの具現化について

様式2

令和4年度 学校評価の4点セット（記入上の注意）

1学期

立

学校

令和4年 月 日

【学校の教育目標】

【育成を目指す資質・能力】

焦点化（できれば1つに）

三つの柱で具体化して整理

重点的取組

取組指標

評価

2学期への改善点

柱①

重点目標に繋がる「達成指標」及び具体的な「取組指標」を設定

柱②

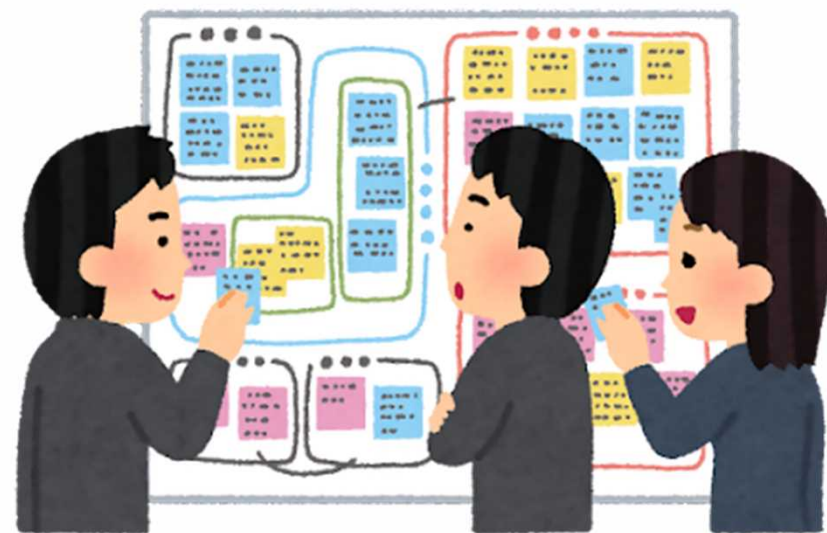
重点目標に繋がる「達成指標」及び具体的な「取組指標」を設定

柱①、②をどのような方向で
動かせるか意識して設定

柱③

重点目標に繋がる「達成指標」及び具体的な「取組指標」を設定

- ①問題点や課題とその要因分析
- ②どのような「資質・能力」を育成する必要があるか、KJ法やSWOT分析を活用し、設定
- ③昨年度4点セットの検証・改善



② 4点セットでの具現化について

【児童生徒の実態】

- 基礎的・基本的な学力が定着できていない。

【要因分析】

- ・そもそも、基礎的・基本的な学力が定着しない原因はどこにあるのか。
- ・どのような資質・能力が育成されると子どもたちは学びに向かうことができそうか。
- ・平素の授業で意識することは何か。教え込みでの授業で定着していないのを子どものせいにしていないか。

【育成を目指す資質・能力】

- 基礎的・基本的な学力

👉何をすればよいか不明確



学習指導要領
総則で
ご確認を

② 4点セットでの具現化について

小学校 算数

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、
数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを**理解する**とともに ～ する**技能を身に付ける**ようにする。

「知識及び技能」の**習得**

- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力 ～ **を養う**。

「思考力、判断力、表現力等」の**育成**

- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、～ **態度を養う**。

「学びに向かう力・人間性等」の**涵養**

② 4点セットでの具現化について

「育成を目指す資質・能力」は三つの柱で育成する

学校として 「育成を目指す資質・能力」

重点目標	達成指標
「知識及び技能」の習得	
「思考力、判断力、表現力等」の育成	
「学びに向かう力・人間性」の涵養	

② 4点セットでの具現化について

【育成を目指す資質・能力】

(例) 「筋道を立てて考え表現する力」

重点目標 (例)	達成指標
知識及び技能の習得 筋道を立てて考えるためのスキルの習得	
思考力、判断力、表現力等の育成 筋道を立てて自分の思いや考えを伝えることができる力の育成	
学びに向かう力・人間性の涵養 自分の思いや考えを進んで伝えようとする意欲や態度の育成	

② 4点セットでの具現化について

資質・能力の三つの柱について

小学校及び中学校学習指導要領解説「総則編」P38

③ 学びに向かう力，人間性等を涵養すること

児童（生徒）が「どのように社会や世界と関わり，よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力，人間性等」は，

他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素

である。

② 4点セットでの具現化について

「育成を目指す資質・能力」は三つの柱で育成する

学校として 「育成を目指す資質・能力」

重点目標	達成指標
知識及び技能の習得	
思考力、判断力、表現力等の育成	
学びに向かう力・人間性の涵養	「知識・技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」が前提となって「学びに向かう力・人間性」が涵養される。

③ 学力向上プランとの連動について

「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ P20

〈学校に求められる取組のポイント〉

◆ 教科等横断的な視点による組織的な取組の推進

カリキュラム・マネジメント^{*)}の充実を図るため、主幹教諭・教務主任及び指導教諭・研究主任が中心となって、他の主任と役割分担しつつ、以下の取組を進める必要がある。

- 学力向上プランの授業改善テーマ・授業改善の重点、及び総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力については、育成を目指す資質・能力を踏まえて設定された学校の教育目標と連動させること。
- 学校の教育目標の下、各教科等の単元の学習内容や学習活動、学校行事計画等を相互に結び付けるなど、教科等横断的な視点で教育課程の編成・実施を行うこと。その際、単元配列表等を活用すること。
- 取組の実施状況を学校全体で評価・分析し、改善に繋げるため、単元配列表等を用いてポイントとなる単元や行事等を確認し合う校内研修を定期的に行うこと。その際、「学校評価の4点セット」の検証・改善と併せて行うなど効果的・効率的に行うこと。

③ 学力向上プランとの連動について

令和2年度学力向上プラン（参考様式）

〇〇立〇〇〇学校 学力向上プラン（2月）

	学力状況について 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題	学習状況について 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題
児童生徒の課題	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ※8月に設定した取組状況に基づいて評価する。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ※8月に設定した取組状況に基づいて評価する。 (例)補充指導、家庭学習指導、読書指導等	

「芯の通った学校組織」
推進プラン第3ステージ P47

2. 「学校評価の4点セット」と「授業改善の5点セット」について

- 〈授業改善テーマ・重点〉は、「学校評価の4点セット」の「重点目標」を、どのような授業で達成しようとするのかといった視点から設定する。
- 「学校評価の4点セット」の「重点目標」は、資質・能力ベースで設定されているため、それを実現するための「重点的取組」は、〈授業改善テーマ・重点〉に整合する場合が多いと考えられる。
- 「授業改善の5点セット」の〈取組指標〉は、「学校評価の4点セット」の「取組指標」と同様のものが位置付く場合もある。また、必要に応じてさらに具体化した「授業改善の5点セット」の〈取組指標〉を加えて設定するなどが考えられる。

③ 学力向上プランとの連動について

エラー例とその改善策①

育成を目指す資質・能力
問題発見・解決能力

学力向上プラン
授業改善のテーマ・重点
**ICT機器を効果的に取り入れた
わかりやすい授業の創造**

連動できて
いませんよ

いいえ。こうした考えのもと行っているんです。

ICT機器を効果的に取り入れることで

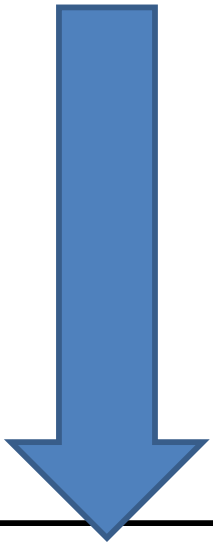
- ・言語のみではイメージ化できにくいものを可視化することにより、比較したり、関連付けたりして必然性のある問題発見能力の育成を図っている。
- ・問題解決の方向性を決定していく過程においてICTで資料等の情報を収集したり、説明資料を作成したりすることにより、問題解決能力の育成を図っている。

ならば、そのような意図が伝わるように明記(言語化)する必要があるのでは？

③ 学力向上プランとの連動について

エラー例とその改善策②

育成を目指す資質・能力 **問題発見・解決能力**



ICT機器を効果的に取り入れることで

- ・言語のみではイメージ化できにくいものを可視化することにより、比較したり、関連付けたりして必然性のある問題発見能力の育成を図っている。
- ・問題解決の方向性を決定していく過程においてICTで資料等の情報を収集したり、説明資料を作成したりすることにより、問題解決能力の育成を図っている。

学力向上プラン
授業改善のテーマ・重点

子どもが必然性を持って問題発見・解決する授業の創造
～ICT機器の効果的な活用を通して～

言語化することで、共有でき、同じベクトルで推進できる。

④ 管内の好事例について

R3学校訪問 育成を目指す資質・能力を明確にした授業改善の取組

日田市立咸宜小学校

育成を目指す資質・能力 「意欲的に考え、表現する力」
「他者と協力する力」

連動している

学力向上プラン
授業改善のテーマ・重点
自ら表現する子どもの育成
目的意識をもち、自分の思いを伝えようとする子

考え、表現する力・他者と協力する力

「考え、表現する力」を育成するワークシート
5年生理科

課題 場所によって様子がちがう。どんな草があるのだろうか。



水がきれい。石が大きい。
まよこに森がある

近くに草がある。③より石が小さい。
横に草がある。

そばの土が細かい。石がある。
川がわかれてる。わがれ所がある。

「知識の概念的な理解」を問うワークシート。
写真も非常に有効。

自分の考えを記述する欄には「考えるための
技法」が明記されている。

比べると...

まとめ

考え、表現する力・他者と協力する力

「考え、表現する力」を育成するワークシート

4年生音楽

- ・自分の考えを記述する欄が設けられている
- ・思考を助けるためのヒント(視点等)がある。

(自分たちのえんきうをきいて...)
リズムはあっている

まとめ:

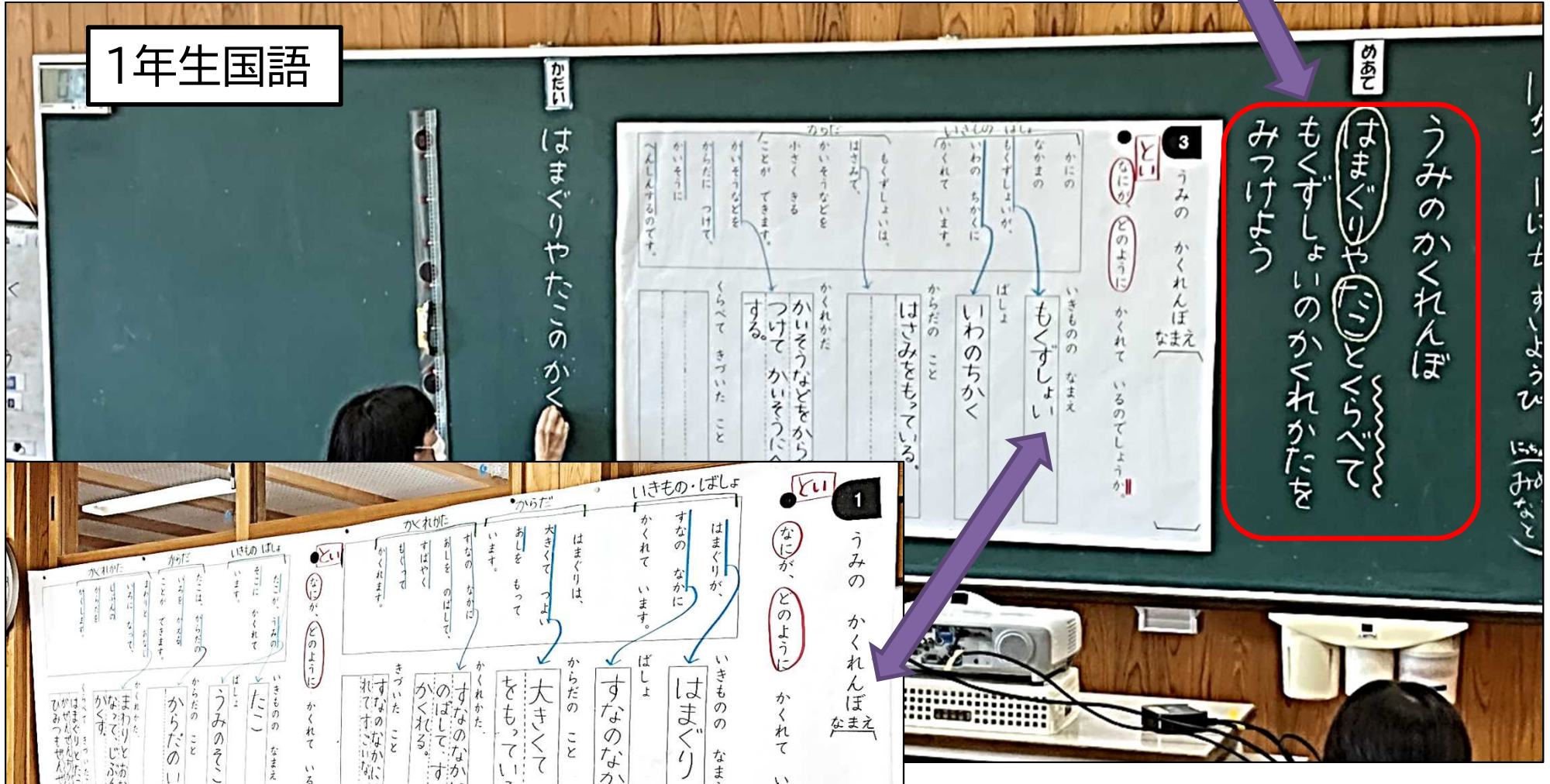
(友達のエんきうをきいて...)
(きこ)音が合っていた①をひくひとがマラカスだけ
(きこ)リズムがいい音楽とあっている。
(きこ)リズム感がいいはやすぎずおそろすぎなかった
(きこ)早いかな後のちがってリズムの音が合っている。
(きこ)どちらにもタンバリンはあた方がいいと思う

ふり返し

考え、表現する力・他者と協力する力

「考える技法」に目が向くように提示されたためあて

1年生国語

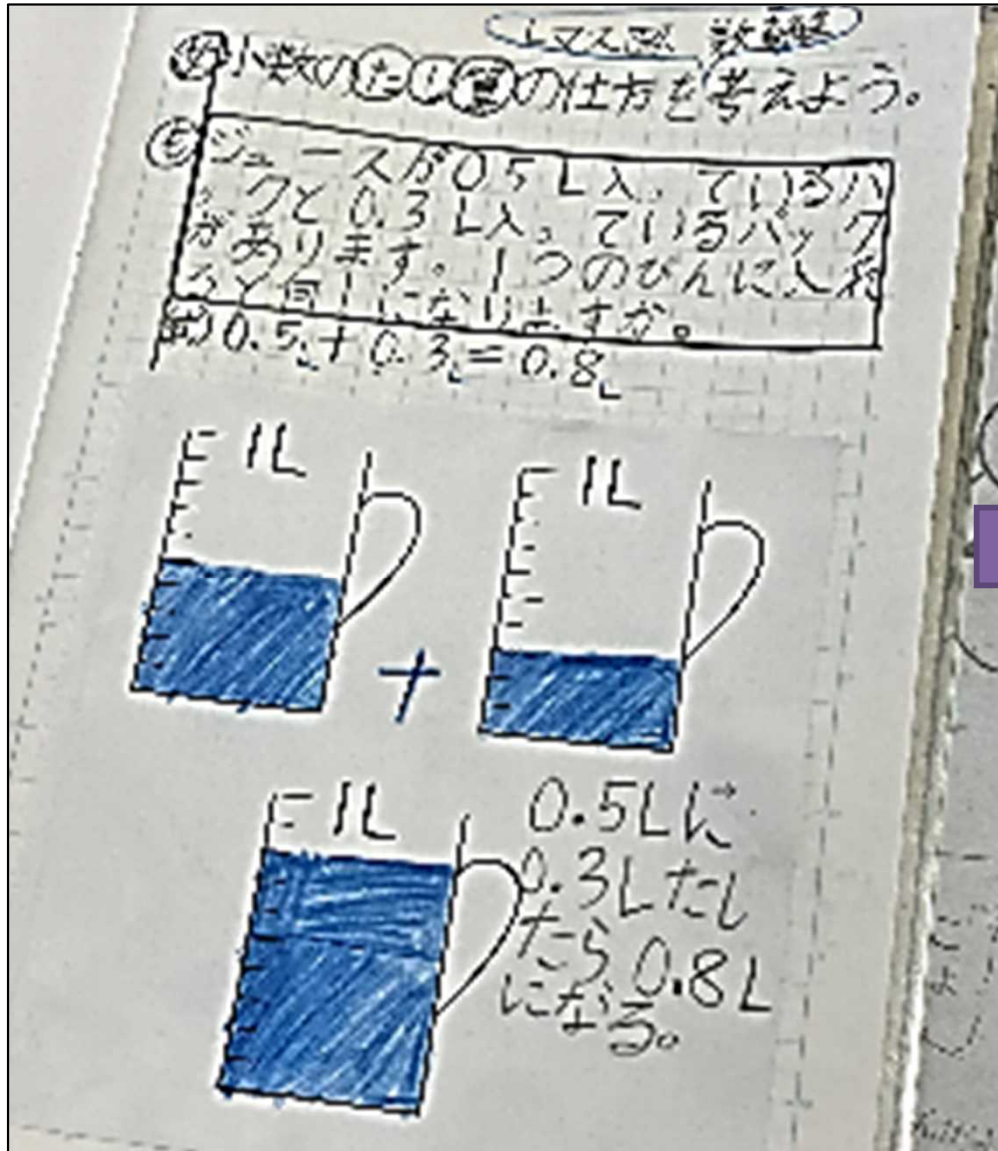


うみのかくれんぼ
なまえ
はまぐりやたこのかくれんぼ
もぐすしよいのかくれかたを
みつけよう

子どもたちの思考のヒントとなる掲示物の工夫

考え、表現する力・他者と協力する力

3年生算数



自分の考えをもとに協力して解決に向かう姿

育成を目指す資質・能力を明確にした授業改善の取組


-日田市立咸宜小学校-

日田教育事務所

考え、表現する力・他者と協力する力

「考え、表現する力」を育成するワークシート 5年生理科

課題 川戸川には様子から、どんな変化があるのだろうか。



水がきれい、石が大きい、まよこに木がある

近くに土がある、@お石が小さく、橋に草がある

いばの土が入れられている、川がわかれて、川が所々ある

「知識の概念的な理解」を問うワークシート。
写真も非常に有効。

自分の考えを記述する欄には「考えるための技法」が明記されている。

(自分たちのえんきうさきいて...)
リズムはあっている

(友達のエんきうさきいて...)
(えん)音が合わさったのをひびくとマラカスだけ
(きん)リズムがいい音楽とあっている。
(おん)リズム感がいいはぐさずおそすぎはかた
(めい)早いかな、後の音がリズムの音か。
(ゆき)とらちにもカンパリにはあま方か、と思ふ

「考え、表現する力」を育成するワークシート 4年生音楽

- ・自分の考えを記述する欄が設けられている
- ・思考を助けるためのヒント(視点等)がある。

「考える技法」に目が向くように提示されたため

1年生国語

子どもたちの思考のヒントとなる掲示物の工夫

3年生国語

板書とノートの一体化のためのワークシート

3年生算数

自分の考えをもとに協力して解決に向かう姿

まとめ①

- 学校評価の4点セットの「育成を目指す資質・能力」と学力向上プランの「授業改善のテーマ・重点」が連動することにより、学校全体で組織的な授業改善が進められる。(観点Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)

「育成を目指す資質・能力」と
学力向上プランの「授業改善のテーマ・重点」が連動

児童生徒の
資質・能力の育成

学力に関する
達成指標

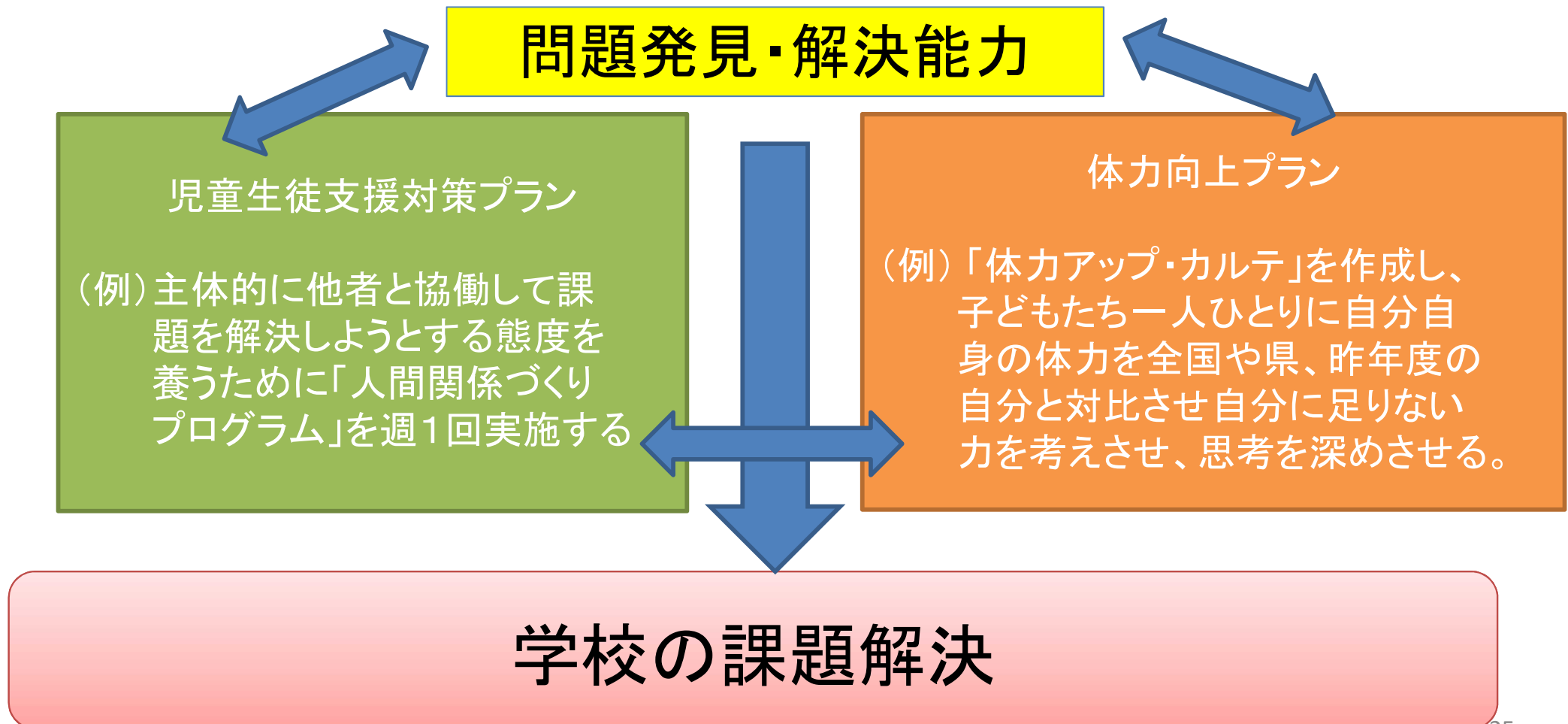
体力に関する
達成指標

アンケート

学校の教育目標の実現

まとめ②

- 「育成を目指す資質・能力」の共通理解が図られ、カリキュラム・マネジメントが推進されることにより、各種プランにも反映され、検証・改善により学校の課題解決へとつながる。



第3ステージ「学校マネジメント4つの観点」

「全体最適」を目指す相関図

役に立つ
日田教育事務所

目的
子どもたちの有能さを引き出す

学校の教育目標

↑ 見つめなおし

↓ 具現化

目マネ：目標達成マネジメント
組マネ：組織マネジメント

観点Ⅲ 組マネ

観点の肝

主任等が、ミドル・アップダウン・マネジメントを適時・適切に行う

観点Ⅰ 目マネ

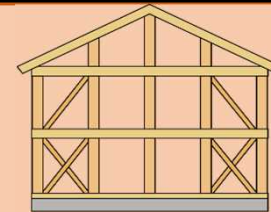
観点の肝

“設計図”が整っている

※全職員の納得解に基づき完全共有ができています

◆「育成を目指す資質・能力」が明確である

- ✓ 1or2つに焦点化された“妥当な”育成を目指す学習の基盤となる資質・能力
- ✓ 資質・能力の3つの「柱」に“適切に”落とし込んでいる



◆「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」など、各指標設定等が整っている

※第Ⅱステージで完了済のはずですが...

- ✓ 各種指標(達成指標、取組指標)の根拠や理由を職員全員が説明できる

主任等：
“縦”と“横”の連携のキーパーソン

- ✓ 学校運営の効率化をする
- ✓ 専門スタッフや関係機関等と連携体制を構築する

観点Ⅱ 目マネ

観点の肝

これらのことを、“最新・最適な状態”にアップロードする

◆ “有機的な”PDCAサイクルを回している

- ✓ 検証・改善フローの徹底⇒適切なスパン(短・中・長期)
- ✓ 徹底した要因分析に基づく検証の実施(例:「なぜ」を5回繰り返す)

“カリマネ”の推進へ

観点Ⅳ 目マネ

観点の肝

家庭・地域が学校と一体となり(協働し)、子ども、地域活性化に“力を結集する”

- ◆ 「目指す子ども像」を共有し、同じベクトルで取り組む
- ✓ 学校運営協議会が機能する

熟議で共通理解、及び方策を生み出す

推進部会で実働

検証改善:チームできてる? 役割分担は適切だった? 「14の業務」納得している? 等々

往還

学校運営の中核をなす“組マネ”